

## 性産業に従事する MSM とトランスジェンダーの実態調査と受検勧奨

研究分担者： 今村顕史（がん・感染症センター都立駒込病院）  
研究協力者： 砂川秀樹（明治学院大学国際平和研究所）・生島嗣（特定非営利活動法人  
ふれいす東京）・荒木順（特定非営利活動法人 akta）・カエベタ亜矢(新宿区保健所)、  
堅多敦子(都立駒込病院)

### 研究要旨

本研究は、3年間の調査を通じて、男性に性行為等のサービスを提供する男性のセックスワーカー（MSM-SW）、およびトランスジェンダーのセックスワーカー（TG-SW）の HIV/STI 感染等に関する健康リスク低減のために必要な環境整備の具体的方法を提言することを最終的な目標としてきた。

過去二年間は、主に MSM-SW を対象として調査をおこなってきたが、今年度は TG-SW を主な対象として、1. TG-SW が働く性産業事業者リスト化と同インターネットサイトの分析 2. TG-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査：7名）を実施した。また、3. MSM-SW の置かれている状況の把握のためのインタビュー調査（4名）も追加しておこない、これまでのインタビューで聞き取られた内容を確認しながら、2の TG-SW と比較した。

1において、インターネット上で把握できた全国の、TG-SW が在籍する性産業事業者は 228 軒（女性主体型 148 TG 専門型 63 混合型 19）であった。それらの店舗で TG-SW として働く人は、1902 人。TG 専門店の 7 割近くが、東京、愛知、大阪、福岡に集中しており、また首都圏の店舗で働く TG-SW が全国の数の半分を占めていた。こうした店舗のインターネットサイト上で、性感染症予防のため客にコンドーム使用を求める文言を明確に提示している店舗は、37.8%しかなかった。

しかし、TG-SW などのインタビューから、店舗が客に対してコンドーム使用等を求める態度をいかに明確に示しているか等が、SW が、客に対する感染症予防のための態度を貫くことへ影響している様子もうかがえていることから、今後、店舗で働く TG-SW のリスク低減のためには、店舗に対して、サイト上で挿入行為においてコンドームの使用が必須であることなどを明示することを求めていくことが有効と考えられる。

また、今回の調査からは、男性が客である場合、トランス女性もトランス男性も、客は基本的に異性愛者であり、そのため、TG-SW の多様さとは対照的に、そこで生じる関係性は異性愛の枠組みが強く、時に異性関係的なパワーバランスの中でリスクにさらされがちな様子がうかがえた。そうした異性愛的枠組みの中で、MSM 向けに発信されているような HIV など性感染症に関する情報が届きにくい可能性もあり、今後、異性間の性産業の側からも、MSM を対象とする啓発活動の側からもアプローチしていく必要がある。

MSM-SW のインタビュー調査では、売り専経営経験者から、店舗での MSM-SW の現場でアナルセックスでのコンドーム使用などの頻度が高いとしても、繰り返し性行為がある中で生じる HIV 感染のリスクが指摘されるとともに、HIV が検出限界以下になった HIV 陽性者の SW がセックスワークを継続できるようにしていくことの提言がなされた。それを前提にすることが、検査へのハードルが下げ、感染がわかってとも言えないという状況を回避できることにもつながるであろう。

また、今回のインタビューでも、店舗に所属することなく、「セックスワーカー」という意識なく、金銭の授受を伴いながら性行為をおこなっている人たちが、もっともリスクにさらされている。こうした人たちへのアプローチをいかにおこなっていくかが、大きな課題の一つである。

## A.研究目的

本研究は、三年間の調査を通して、男性に性行為等のサービスを提供する男性のセックスワーカー（MSM-SW）、およびトランスジェンダーのセックスワーカー（TG-SW）の HIV/STI 感染等に関する健康リスク低減のために必要な環境整備の方法を提言することを最終的な目標としてきた。具体的には、HIV/STI に関する正しい知識、新しい情報を入手し、それに基づき自ら必要と判断する感染予防を実行でき、必要な際に HIV/STI の検査や治療、または社会的資源にアクセスできる環境を検討提言すると同時に、それを実現するネットワークの土台づくりまで想定している。

なお、本研究の始まりにおいて、TG-SW として、トランス女性（男性から女性へのトランスジェンダー）を想定し、男性向けに性行為を提供するトランス男性（女性から男性へのトランスジェンダー）は、MSM-SW に含まれるものと位置づけていたが、昨年度のトランス男性のセックスワーカーのインタビューからは、置かれている労働環境、社会的文脈において、トランス男性は、MSM-SW よりトランス女性のセックスワーカーとの親和性が高い様子がうかがえたことから、TG-SW として包括した上で、差異について分析する方が適切であると考えようになった。その上で、今年度の本研究の中では、MSM と TG などの「性的マイノリティ」のセックスワーカーの共通性と、差異、隣接性も捉え直す。こうした、ジェンダー／セクシュアリティのマイノリティ性を持つ人たちのセックスワーカーの社会的配置関係を明らかにすることは、先に述べたような環境づくりや啓発をおこなっていくうえで重要なものである。

これまでの経過として、本研究の初年度には、MSM-SW をテーマに、1.海外文献を中心とした先行研究レビュー；それらの層について明らかにされてきたことの確認、2. 形態の把握と分類；どのような業態のもとで、金銭の授受を

伴う性行為がおこなわれているかの分析をおこなった。2 に関しては、インターネット上で MSM-SW の事業者の調査と予備的なインタビュー調査を実施した。

二年度目には、東京都内の MSM-SW の性産業事業者をリスト化し、事業者数、MSM-SW 数をカウントすることで産業としての規模を把握した。さらにそのリストに基づき、A 型肝炎の流行を情報提供の契機とすることで、HIV/STI の情報を流通させる関係づくりを模索した。さらに、昨年度よりインタビューの範囲を広げ、経営者も含めた MSM-SW の関係者のインタビューを行うことで MSM-SW の現状の把握を進め、直面している問題点を示した。

最終年度となる今年度は、TG-SW に関する産業規模等を把握するため、全国の TG-SW の在籍する店舗をリスト化し、その軒数と従事者数を調べるとともに、TG-SW のインタビューをおこなった。さらに、MSM-SW へも追加インタビューを実施した。

昨年度の段階では、本年度は、TG-SW の働く店舗へアクセスし、性感染症の情報提供などに協力を求める予定であったが、情報提供の方法なども含め、今後、当事者を含めたネットワーク構築をおこない、その中で検討しながらアクセスする必要があると判断し、そのための提言とインタビュー実践によるネットワークづくりを今年度の目標とした。

## B.研究方法

### 1. TG-SW が働く性産業事業者リスト化と同インターネットサイトの分析

TG-SW が働いている全国の性産業店舗のインターネットサイト、ツイッターアカウント、女装等の TG の人たちが主に使う掲示板をリスト化した。その後、同リストに基づき、地域別店舗数またそれぞれの店舗で働く TG-SW の数を算出した。さらに、サイト上に掲示されている客に対する注意書き等に、コンドーム使用など

HIV/STI 予防に関する項目があるかチェックした。

また、掲示板の投稿において、金銭の受領を伴うセックスの相手を募集している人を対象に、インタビュー協力の依頼もおこなった。

なお、リスト化、TG-SW のカウントに関しては、トランスジェンダーアクティビストで、自身もセックスワークの経験があり、セックスワーカーのグループ「SWASH」に所属している畑野とまと氏に協力を得た。

## 2. TG-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査）

TG-SW が置かれている労働環境を把握するため、自由面接に近い半構造化面接をおこない、IC レコーダーに録音した。主な質問項目は下記の通りであるが、自由面接に近い形でおこない、必ずしもこの流れには沿っていない。応答の内容に応じて項目に加除を加えた。

▼年齢（生年） ▼居住地（都道府県） ▼出身地 ▼自身の性自認や性自認にまつわるアイデンティティや呼び名について ▼ジェンダー移行に関するライフヒストリー ▼自身の性産業とのかかわり/働き方（分野、どれくらいのかかわり/働き方か、経緯、現場での性行為の内容とその決定のされ方、その決定への自身の意志、コンドーム使用等、予防の様子、HIV 検査の位置づけ） ▼医療とのかかわり（性感染症が気になったときの診察、他の病気等、体調が悪い時の診察） ▼見聞きしている他の性産業に関して（トランスジェンダーの人が働く性産業の種類について、労働環境） ▼意見（自分が関わっている業界で改善が必要と思うこと、HIV に関連した施策で望むこと） ▼ほか（PrEP についての知識と関心、プライベートと職業上の性行為における性感染症予防の違い）

なお、今回のインタビューのリクルートに関しては、調査者がもともとつながりのあった人物への依頼のほか、女装する人向けにロッカー

の貸し出しをおこなっている事業者、性風俗で働く人（主に女性）を会員とする口コミサイト運営者に協力を得た。

これらのつながりは、今後、TG-SW に対して調査や啓発のアプローチをおこなっていく際に有用になるものと思われ、ネットワークづくりを意識したインタビューの実施となった。また、1 でリスト化した掲示板に投稿している人にもコンタクトをとり、その中から 1 名インタビュー協力者を得ている。

## 3. MSM-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査の追加）

初年度、MSM-SW と客の予備調査としてインタビューを実施し、MSM-SW の置かれている状況について概要は把握した。二年度目には、詳細を確認するため、MSM-SW、経営者、客、支援者といった様々な立場の関係者へさらにインタビューを重ねた。今年度も、追加インタビューとして、売り専で働く SW と、経営者/経営経験者、掲示板を通じて「サポ」をおこなっている個人、という大きく立場の異なる人たちにインタビューの協力を得た。そのうち、経営経験者には、過去の研究報告書を読んでもらった上で提言を求めた。その結果、HIV 感染とセックスワークに関する重要なコメントを得ることになった。

項目は、ジェンダー移行に関わる項目などをのぞき TG-SW とほぼ同じ内容、方法で行なった、自由面接に近い半構造化面接である。

### （倫理面への配慮）

インタビューに際して、紙面で、研究内容と録音データの扱いについての説明、任意性の確認、インタビュー中断・インタビュー後の協力撤回の自由について説明をおこない、インタビュー協力者、説明者ともに署名し、それぞれ一部保管する。インタビュー内容を引用する際には、匿名性を保持する。

## C.研究結果

### 1. 全国のTG-SW在籍の性産業事業者のリスト化、従事者数の概算（インターネット調査）

TG-SWが在籍している性産業事業者は、今回、インターネットサイトで把握した範囲では、全国に228軒あり、トランス女性として在籍している人は1902人、トランス男性として在籍している人は57人である。

今回、ヘルス、デリヘル、ソープなどの業態をピックアップしているが、それらを女性主体の店と、「ニューハーフヘルス」「ニューハーフデリヘル」などのTG専門、および混合タイプに分けている。女性主体の店では、TG-SWの所属が1名というところが多い。ただし、あくまでサイト等の情報から判別できる範囲であり、完全に性別を移行し女性として働いているケースも一定数存在することが考えられる。

地域別の店舗数は表1の通りである。この表からもわかるように、専門の大部分が大都市にあり、東京、愛知、大阪、福岡で43軒、全国の68.2%を占める。また、TG-SWの数も、東京だけで884人となり、今回把握できたTG-SWの46.5%を占め、千葉、神奈川、埼玉まで合わせると49.5%（942人）とほぼ半分を占める。なお、全国に10店の支店を持つ大きな事業者も存在している。

専門と混合型の店舗のサイトは、注意書き等にHIV/STI予防に関する記述の有無をチェックした。その結果は、考察に記載する。

地域	女性主体	専門	混合	合計
北海道	7	1	0	8
東北	15	3	1	19
関東	28	33	9	70
東京（再掲）	6	24	5	35
中部	43	7	1	51
愛知（再掲）	4	4	1	10
近畿	14	11	1	26
大阪（再掲）	4	10	0	14
四国	5	1	2	8
九州	17	5	0	22
福岡（再掲）	3	5	0	
沖縄	3	1	0	4
合計	146	63	19	228

（表1）地域別事業者数

### 2. TG-SWの置かれている状況の把握（インタビュー調査）

今回のインタビュー協力者は下記の通り。

元ワーカー&アクティビスト	1名	
セックスワーカー	5名	1人は、トランス男性（=FtM：女性から男性へのトランスジェンダー）、1人は、性自認不明確
サイト運営者	1名	非トランス女性。自身も、異性愛者向けのあらゆる業態の性風俗を経験してきた。
合計		7名

ここでは、それぞれの簡単な経歴等を提示し、重要なインタビュー内容は分析を加えながら考察に示す。以下、経歴等の言葉は、本人の語りそのものでなく引用者により調整されている。

## 【元ワーカー&アクティビスト】

tw-Aさん：50代前半

<立場>

トランス女性／元セックスワーカー（ニューハーフヘルス店従事、自営）

<経歴等>

セックスワークに入ったのは95年の8月頃。仕事を辞めることになり、一緒に住んでいた相方〔注：パートナーの意味〕と無職の状況になり、二人で相談して、風俗で働くことにした。ニューハーフヘルスが、ちょうど住んでいるところの近くにあり、電話して、初日面接明日から来てっていわれてすぐに。出張はなかった。

性行為は、アナルセックス、フェラチオ。アナルセックスではコンドームは使用するが、フェラは使わないので、それはうがいで。で、割と店側からは、セーフセックスをきっちりするよう言われた。客にゴム使いたくないということも言われても、それは断れるようになっていた。そこでは、2年半くらい働いた。それは長いほうで、いる間にキャスト【店に在籍するSW】は入れ替わった。

その後、97年か98年にお店をやめたあとに、相方と二人でデリヘルを立ち上げた。二人がキャストで。当時は都内にはデリヘルはほとんどなく、車買って。受付を24時までにしておこなった。デリヘルのノウハウを持っていた。すでに、セックスワーカーのグループとかに関わっていたらから、出張のやりかたの話とかも聞いていた。セックスワークは2007年くらいまで。

## 【セックスワーカー】

tw-Bさん：30代前半

<立場>

トランス女性／セックスワーカー（現在、ニューハーフヘルス店従事、過去に個人で）

<経歴等>

自分を表現する言葉は、真面目な話をするときには、トランスジェンダー、MtF、GIDという

言葉を使う。営業的なお仕事の事になると、オカマ言葉を使ったりする。

SWの仕事をするきっかけは、勤務してたIT企業に女性の格好で入社したら、他社さんとかの目もあるので、やめてください、と言われて、ちょっと私の中で納得できなくて、どうしようかと悩んでいる時に、二丁目に遊びに行き、やっぱり私こっちのほうが楽しいと思って、それで、会社を辞めたこと。ネットで、ニューハーフヘルス嬢のそういう紹介サイトがあって、そこからメールで応募。現在、20人くらい所属している店に在籍している。お店に待機する形。基本、個室があるが、そのホテルとか自宅の場合は自分から行く。個室使用の方が多い。

性行為は、フェラチオ、ファック、逆アナルファックなど。コンドームの使用は必須。コンドームつけないで求められても、全部断る。フェラでは全くつけない。

検査は、月に1回、多いときは2回クリニックへ。HIV、梅毒、クラミジア、淋病、C型肝炎など基本的なものは網羅しているものを受ける。今まで、感染症の経験なし。

20歳くらいから半年くらい、経済的に困っているときにネットを通じて、個人的にやったりしていたこともある。セックスワークはそれ以来。今後、性感染症の知識とかをもっと広げていきたいと考えている。また、LGBTについて学校で教えられるようにしていきたい。

性産業で働いている女性向けの口コミサイト「M」を利用。同サイト運営者s-Aさん（後述）を紹介。

tw-Cさん：20代後半

<立場>

トランス男性／セックスワーカー（現在、トランス男性、女性のいる店舗に在籍）／口コミサイト「M」の広告を見て連絡

<経歴等>

18歳頃からホルモン注射を始めて、20歳に海

外で手術。性産業は、2018年4月から。トランス女性、トランス男性が働いている店。派遣型。一部、待機の人もいる。キャストは30人くらい。

最初の面接で、挿入行為は禁止と言われている。オーラルでのゴム使用に関しては何も言われておらず、客は基本なしを希望するので、なしで。ほか、膣も使える形ではあるので、客が手でいじる形。

地方へ出稼ぎに行ったことも2回ある。また、ソープランドで働いたこともある（3日でやめた）。検査は、HIVは、南新宿でできれば月に1回。ほかも、新宿ではクリニックが多いので、2-3ヶ月に1回は受ける。特に受けづらかったことはない。

#### tw-Cさん：30代前半

<立場>

「女装子」／セックスワーカー（現在、ニューハーフヘルスで働いている）／ロコミサイト

「M」の広告を見て連絡

<経歴等>

ネットで、2年くらい前に、女装したい人を募集している投稿を見て、応募して女装を始めるようになった。

普段は女装をして働いていて性的対象は男性。店での性行為は、フェラチオ、アナル。フェラチオではゴムは使わない。アナルではコンドームを使う。

普段、女装しないと「いかつく」見られてしまい、女性に敬遠されるが、女装すると女性と話せるようになるのが嬉しい。女装することで自分を解放できた感じがする。ヘルスの仕事も楽しく感じている。

#### tw-Eさん：20代前半

<立場>

体の性別は女性、性自認は女性でも男性でもない／セックスワーカー（現在、エステで働いている、「レズ風俗」で働いたこともある）／ロ

コミサイト「M」の広告を見て連絡

<経歴等>

女性の体で生まれて女性として働いているけど、性自認は女性ではない。もともと男性になりたかったけれど、男性向けの風俗で働くようになり、男性もいやだなと思うようになった。

性産業で働くようになって1年くらい。今は「エステ」で脱ぎなし。裸になるオプションがある店にもいたことがあるが、服を脱ぐけれど性行為的なものはなかった。

禁止されている行為を求めてくる客がいても、断っている。そこで断れるのは、自分の思考回路が女性側じゃないからだと思う。

「レズ風俗」で働いていたこともあり、他の人にはレズビアンと説明するが、女の子同士で付き合っているというイメージは少ない。「レズ風俗」で働いていたときは性感染症の検査を受けていた。店からの指示もあって。「レズ風俗」での行為内容は、ヘルス同じ感じ。一緒にお風呂に入って、オーラルセックスもあって。女性の体で生まれて、女性として働いているけれど、女装している、という感じがしている。

#### tw-Fさん：20代前半

<立場>

女装／ネットでサポ募集／掲示板でインタビューへの協力を依頼

<経歴等>

大学に入り一人暮らしを始めたことをきっかけに自宅で自分一人で女装をするようになった。体は変えていないし、ホルモンも打っていない。女装だけ。女装の人がよく使う掲示板でサポ募集を見て、半年前くらいから自分でもサポ募集をするようになった。性風俗で働いているわけではないので、自分は、セックスワーカーとは思っていない。週に1回くらい募集する。だいたい毎回1人くらい会うが、出会えないこともある。

連絡をくれる相手は、30代後半から50代の

人。行為は、フェラチオを相手にしてあげると、アナル。たまに逆アナル（挿入側）も。フェラチオではゴムを使うことはない。アナルも、掲示板では一応「セーフで」と書くけれど、相手がなしで入れようとしてきたら、そのまま受ける。自分もそのほうが興奮するので。でも、逆アナルは使うことが多い。

病気のことは心配になることもあって、半年に1回くらい HIV と梅毒の検査に行き、その度に緊張するけど、陰性で安心して、また生でやってしまう。今は、バイトだけでは金も足りないし、しばらくは続けると思う。

### 【サイト運営者】

site-G さん：30 代前半

<立場>

異性愛女性／元セックスワーカー、セックスワーカーの口コミサイト「M」の運営者（注：彼女の運営するサイトは、基本的に異性間の性風俗で働く女性のセックスワーカー向けであるが、今回、トランスジェンダーのセックスワーカーのインタビュー協力者を募集するにあたり、広告掲載協力を得た。同募集により応募してきた TG-SW は3名であったが、彼女の運営するサイトは、今後、非トランス・異性間のセックスワーカーも含め、セックスワーカーへアプローチをしていく上で重要なリソースになるものと思われる）

<経歴等>

ほとんどの性風俗の業態は経験している。AV も経験している。現在は引退して、家庭におさまりつつ、性風俗店で働く人たちが情報共有できる口コミサイトをつくって、運営している。

自身が、性風俗店で働くなかで、嫌な思いをすることが多かったことが、このサイトをつくる動機。始めて1年半になる。

働いている人たちが、店舗への評価をおこなう。五項目に分かれており、「バック」というお金のこと、「回転率」、どのような系統のお

客さんが多いかという「客層」、お店で働いているスタッフさんはどういう人たちなのかという「スタッフ」、備品や、店舗自体が汚いとかに関する「環境」。

会員は7千人を超えていて、月間アクセスは70万。今は基本女性が対象でニューハーフの人なども入っている。今後、男性同性間のお店のことも考えたい。

### 3. MSM-SW の置かれている状況の把握（インタビュー調査の追加）

今回のインタビュー協力者は下記の通りである。

セックスワーカー	2名	売り専店従事 1 個人 1
経営者	1名	中規模 1
経営経験者	1名	
合計	4名	

TG-SW と同様、ここでは、それぞれの簡単な経歴等を提示し、重要なインタビュー内容は分析を加えながら考察に示す。以下、経歴等の言葉は、本人の語りそのものでなく、引用者により調整されている。

### 【セックスワーカー】

mw-A さん：30 代前半

<立場>

「売り専」勤務（副業）

<経歴等>

お店に所属しつつ、普段は会社員をしている。お店は、客室もあるが、派遣でホテルやお客の家へ行くこともある。そこでは、働いて4年ほど、登録は10人前後で、皆、副業。

フェラチオでコンドームは使わないが、アナルでは必ず使う。

19歳の頃から、10年くらい全国に支店のある

ような大規模店で働いていたこともある。そこでもアナルではコンドームを使うように厳しく言われていた。ただ、当時は、常連客が相手だと、相手が求めてくると使わないこともあった。今は、常連でも使わないということは、ない。

性感染症は全般検査を受けてきたが、いずれもなったことはない。毛ジラミすら経験がない。

### mw-B さん：20 代前半

<立場>

サポ、売り専での従事経験あり

<経歴等>

2年くらい前から、1ヶ月に1回くらい掲示板でサポ募集で、お金もらってセックスすることがある。サポしてもいいという感じのことを書いていた40代の人にこちらからメールして会ったのが最初。そのときは、フェラチオとアナルの受けをしたけど、ゴム使わなかった。それから、ゴムは使ったり使わなかったり。相手まかせ。でも、つけたがらない人が多い。一人だけ、陽性だけど治療して移さないからとかいう人もいた。そのときはつけた。

HIV 検査、最後に受けたのは1年前くらい、梅毒もそのときに受けたけど、大丈夫だった。

5年くらい前に、売り専で働いたこともあるが、すぐやめた。大きなチェーン店だったけど、マネージャーと合わなくて。そのときは、ゴムはフェラでは使わなかったけど、アナルでは使った。店からつけるように言われてたし。しばらく付き合ってる相手がいたんだけど、別れてから掲示板を使うようになって、それからって感じ。

### 【経営者】

### mo-C さん：40 代後半

<立場>

売り専の経営者、ボーイとして勤務経験あり

<経歴>

働いている人は30人前後。30代が多く、長く勤務している人も多い。うちでは、ほとんどが兼業でやっている。専業で飛び込んでくる人の採用は、よっぽどでないとしない。どうしても売り上げはだんだんと落ちていくので。他の地域から1週間とか一ヶ月とかでかせぎに来る子もいる。すぐ辞める人と長く働く人、たぶん両極。

客はバラバラだけれど、経済力がある人などで、やっぱり40、50代がメイン。

行為自体は、フェラチオと、一応、アナルセックスまである。ただ、できるだけ本人に聞き出すようにしている。できるけど、がっつりできないっていう人も、なんでも来いみたいな人と、全然アナルはダメな人といろいろあるんで。最近では、できない、どちらかだけという人も増えてきている。アナルセックスではコンドームが前提。

お客さんもリスクのあることがしたい場合は、先に聞いてくることが多い。ボーイに飲ませるとかは実はあんまり聞かれたことなく、自分が飲みたいけどいいか、とか

自身のセックスワークの経験は、最初は、個人でネットで、今でいうサポートみたいな感じでやっていた。98年から2000年くらい。僕は、コンドーム使いたかったし、気をつけていた。HIVのことは詳しく知っていてもあって。

でも、その後、店で働くようになり、コンドーム使用に関して、アナルセックスでもボーイからは言い出さないようにという感じで言われて。お客さんが使いたかったら、と。男性が生が基本で、お互い大丈夫でしょう、みたいな雰囲気だった。コンドーム使うってことはやばいの、みたいな、僕は怖いので強引に使っていた。

## 【経営経験者】

mo-D さん

<立場>

売り専の経営の経験あり

<経歴>

売り専の経営をしているときに、ボーイが HIV に感染した経験があるということもあり、またこれまで、HIV に感染した MSM-SW の相談を受けることが何度かあった。今回、HIV とセックスワークの問題についての考えをうかがった。内容の関係から、本人の経歴についての詳細は省くが、ボーイとして働いた経験、売り専経営の経験があり、売り専業界に長いかかわりがある。

## D.考察

### 1. 全国の TG-SW が働いている性産業事業者のリスト化、性産業従事者数の概算（インターネット調査）

リスト化した TG が在籍する性産業事業者のうち、専門、混合のタイプの事業者が、サイト上で、客に対してどのような性感染症予防を求めているかを調査した。このことが重要なのは、後のインタビューの考察でも触れるように、店舗側が、どの程度コンドーム使用などを客に明確に求めるかが、TG-SW が客に対してそのことを強く求められるかを左右する要因の一つだからである。

多くの業者が、「禁止事項」「注意事項」「利用規約」などの項目内で、そうした条件を客に求めている。ここで、女性主体の事業者を除いたのは、女性主体では売春防止法との関係で本番（膣性交）を禁止しており、そのため、本番で使用する前提とされ、本番行為がある証拠とされることのあるコンドーム使用について、そうした項目内で記すことが避けられているためである。

しかし、そうした店でも、所属する TG-SW の

プロフィールには、「アナルファック」（アナルセックスで TG-SW が挿入されること）や「逆アナルファック」（アナルセックスで TG-SW が男性客に挿入すること）がサービス内容として提示されており、法的な位置付けと、性行為における予防行為の必要性との矛盾が現れる形となっている。

性感染症予防のために客に同意が求められていることは、基本、次の四つに集約される。 1. アナルセックスでのコンドームの使用 2. 口内射精の禁止 3. アナルを舐める行為の禁止 4. 性病等に感染していると思われる症状がある場合に断ることがあることへの承諾。

それらの記載のある店舗数と専門型・混合型の総店舗数における占める割合は下記の通りである。

	コンドーム	口内射精	アナル舐め	見た目
数	31	12	14	36
%	37.8	14.6	17.0	43.9

なお、独自のサイトを持っておらず、性産業紹介ポータルサイト上でのみ情報を掲載している店もあり、そうしたサイトでは「禁止事項」などの項目自体がないことが大部分である。

一方、TG 性産業において最大規模と思われる、全国に 10 店舗を構えるある事業者は、上記すべてに関する同意を求めている。しかし、同じ系列点でも、そうした項目がサイト上での掲示位置が異なり、最初に目に入るように掲示されている店と、分かりづらいところに掲示されている店とがある。まずは、そうした予防意識の高い店舗に、より見やすい位置、あるいはわかりやすい表示を求め、禁止事項などが掲示されていない店舗に改善を求めていくということも、今後検討されていだろう。

なお、中には、明確に「中出し」をサービス

として掲げている店舗もあり、またそうした店舗も含め、「血液検査をおこなっている」ことを「安心して遊べる」と表現している店舗もある。こうして、店側が検査を義務付けることが、リスクの高い行為と結びついていることもあり、検査の位置付けの難しさが示される結果となっている。

## 2. TG-SWの置かれている状況の把握（インタビュー調査）

以下、引用記述内における（ ）は、会話中の調査者（＝インタビュアー）による発話であり、【 】は、調査者による補足説明である。

### キャスト（店舗在籍者）について

昨年度までの調査において、MSM-SWにおける多様性として垣間見えたのは、働き方の違い（個人でやりとりしているのか、店舗に所属しているのか）による健康リスクの違いや、経済的、生活環境の違いという階層差であったが、TG-SWにおける多様性は、身体の違いや性自認も含めたものであり、その幅の広さが一つの特徴とも言える。

#### tw-Bさん

（働いている人は、みんなトランスの女性？）えーっと、まだ、みんな「ありあり」だったり、「ありなし」だったり。性転換している子はいないですね。【「ありあり」とは、ペニスと睾丸があること、「ありなし」はペニスはあるが、睾丸はないことを意味する】

（そういうところでは、性別移行してない人たちが働くという？）そうです。ほんと、職業、「職業オカマ」と呼ばれてる人もいますし、「男の娘」とかもいるし。【あるニューハーフヘルスのサイトでは、こうした用語について次のように説明している「当店では、普段から女性として生活し女性ホルモンを摂取しているキャストを『ニューハーフ』、普段は男性として

生活し女装をするキャストを『女装子・女装男子・男の娘』と分類】

（必ずしも性別に違和感がある人たちばかりではない？）そうです、そうです。（割合でいうとどういう感じですか）うちの店は6：4で、6が性自認男で、4が女性だと思います。

（ご本人の性別移行はどの程度？）私はホルモン注射のみです。

ここで、注意が必要なのは、トランスジェンダーという語の使われ方である。

ジェンダー／セクシュアリティに関する研究やLGBTQ（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア／クエスチョニング）の市民活動などでは、トランスジェンダーとは、完全な性別移行や体の変更の有無にかかわらず用いられる包括的な用語である。

一方、性産業の現場では、先のサイトの説明に見られるように、「トランスジェンダー」という語が使われることは少なく、「ニューハーフ」「女装子・女装男子・男の娘」といった語が用いられることが多い。また、前者は、ペニスや睾丸のあるなしにばらつきがある。しかし、本研究では、包括する分析概念としてトランスジェンダーという言葉を用いている。

### 性行為の内容について

ニューハーフヘルスにおいて、キャストの性器の変更やホルモン注射の程度は、提供する性行為と密接な関係にある。キャストのほとんどが、身体的性別移行を完全にしていない人、あるいはホルモン注射も含めて全く身体への変更をおこなわない人である理由の一つは、客にニーズのある性行為である、1990年代から2000年代にかけて働いていたtw-Aさんも、現在働いているtw-Bさんも全く同様な発言をしている。

#### tw-Aさん

基本的には、アナルセックスあり。という

か、アナルセックスがメインですよ。ニューハーフヘルスはアナルが当たり前なんですよ。実は、一番客がくるのは、そっちではなく、逆アナルというコースがあって、ニューハーフのほうがお客さんに挿入するという。大概のおねえさんがペニスを残してる人が多いので。玉抜きしてても、残してる人って結構いるよね。

#### tw-Bさん

（そこではだいたいどういう性行為がある感じですか？）ファック、逆アナルファックは、もう普通という感じ。（そうなんだ、どちらかというとも必須みたいな？）必須みたいな感じですね。両方できなきゃ、ちょっと売れないかな。

それは、性器を「残す」だけでなく、ホルモン注射とも関係している。

#### tw-Aさん

今は結構、あたしらの頃はなかったですけども、やっぱりホルモンを売っていると立ちが微妙に悪いわけですよ。うん、そこで、ホルモンで打ちながら、バイアグラとかを使うわけですよ。

#### tw-Bさん

お仕事から、射精したりとかしなくちゃいけないので、やっぱり、そこでホルモン注射を打ちすぎちゃうとできなくなっちゃうので。やっぱりこうみんなコントロールしながら、やる方多いです。

トランス「女性」もそうしたサービスの提供が求められることの心理的な問題について、Aさんは、「仕事として割り切ってる」という言い方をしているが、Bさんは、そうした状況について、tw-Aさんは次のように語り、メンタルの間

題につながる可能性を示唆している。

#### tw-Bさん

（逆アナルファックは、自分が女性だという感覚がある人には大変だったりしないのかな？）いや、もう苦痛だと思います。もう私は仕事だと割り切ってるので。（そんなに苦ではない？）もう無に。セックスワーカーをしているときは、もう感情を無にしているので。

また、Bさんは、ニューハーフヘルスで性別を移行した人が少ない理由として、「売春防止法」との関連を指摘している。

#### tw-Bさん

性転換してる子でニューハーフヘルスで働いている子がいるっていうのは聞いたことはあるんですけど、やっぱり、売れない。売れないのと、もしそれがバレちゃったときに、入れてる入れてないの話になってくるんですけど、やっぱり、戸籍上は女性になっているので、もうそこは犯罪になっちゃうので、法律的にアウトになっちゃうので、やっぱりあんまりないですね。

この売春防止法との関連は、女性主体の性産業において、女性との膣性交が「本番」とされ表面上禁止されているのに対して、そうした店でも、ニューハーフのキャストはアナルセックスが可能であることが明示されていることにつながっている。

また、逆に、昨年調査のトランス男性でのインタビューでも聞かれたが、トランス男性で膣が挿入可能な形で残っていても、店舗側は売春防止法への抵触の可能性をおそれており、挿入行為が禁止されることにつながっている。今回、tw-Cさんも「最初の面接で、挿入行為は禁止と言われている。」と語っている。

## 性感染症の予防について

上記のように、アナルセックスがあることが前提とされる「ニューハーフヘルス」における性感染症の予防に関しては、次のように語られている。

### tw-A さん

基本的には、ちゃんと流し台のところに全員のカップとイソジン系のうがい薬が置いてあって、で、もうフェラは生フェラだから、もうそれはうがいで。で、割と店の方はセーフセックスをきっちりしていて、必ずゴムを使う。（それは結構守られる感じでした？）守られる。うん。

### tw-B さん

（コンドームの使用は？）必須です。フェラは生でもオッケーなんですけど、入れるときは。（ご自身のときはオーラルセックスのときはどうされてる？）つけてないですね。（全くつけてない？）つけてない。お客さんがしてくれというときはしませんが。

### tw-C さん

店での性行為は、フェラチオとアナルファックです。フェラチオではゴムは使わないですね。アナルでは使います。

## 客とのやりとりについて

しかし、客のやりとりの中では、コンドームなしのアナルセックスなど、店側が禁止している行為を求める客も多いという。

### tw-B さん

（お客さんで生でやりたいという人はあまりいない？）いや、結構います。結構いるんですけど、全部断っちゃう。（断るときに断りづらかったりすることあります？）いや、もうぜんぜん、「エイズになりたいですか？」って言って。

最初は、やんわり断ってたんですけど、あんまりやんわりでも強行突破しようとしてくるから、はっきり言ったほうがいいなと思って。

（じゃあ基本は、店側もダメとは言ってるけども、使わずにやろうとする人たちはいるんだ？）もう全然いますね。（結構いる感じですか？）四割くらい。

### tw-A さん

知らないうちコンドーム外しが一番こわいのはバックのとき。正常位のときは、見えてすぐに手で止められるけど、バックのときはほんと外されやすいから気をつけないと。バックのとき、必ず自分で手を添えて誘導するような形で。（そういうことをしがちなお客さんはいると）いるいる。

BさんとAさんは、客に対して強い態度でリスクのある行為を拒否できているが、体格差などで、無理強いされる経験を持つSWもいる。

### tw-C さん

ダメな行為を無理強いしてくる人は結構いる。特に最初の客は。素股のはずが、性器に擦り付けてくる人もいるし、入れてこようとする人もいる。ダメなものはダメというが、力で抵抗仕切れないこともある。

こうした体格差に関して、一見、形態としてはシス女性として異性愛者エステで働いている形になるEさんも不安を語っている。

### tw-E さん

普段は性感染症気にならないけど、エステを勘違いしてるお客さんもいるので、急に素股してきたり、体格差があるので、ひょいと持ち上げられるとどうにもできなくなっちゃうので、そういうのがあるかな、っていうのと。

そして、コンドームの使用に限らず、客側が禁じられている行為をしようとしてくることについての E さんの洞察は興味深い。

#### tw-E さん

風俗のお店で変えられる部分って少ないと思うんですよ。男性の思考回路とか、たとえばエステだと私がずっとやっていたところは、抜きなしなんですけど、「抜いて抜いて」とか言われたりとか、今のところだと、素股したりとかフェラを要求したりとか、常に上を要求される。お客さんに、それならこっちのお店にいかないんですよ、って言っても、できるかできないかのところで、かけひきすることが楽しいみたいなことを言われてしまうので。うちのお店は、脱ぐオプションはないんですけど、脱いでくれたら、特別感があって嬉しい、とか、

彼女は、このような客の傾向性について、「風俗のお店で変えられる部分って少ないと思うんですよ」「お店自体が変えるというよりは、お客さんのアレ【思考回路】なので」と語っているが、店舗がどういう姿勢を示すかの影響は大きい。

#### 店の役割について

店舗で働いている場合、店が基本、コンドームなしのアナルセックスを禁じていることが多く、また、その姿勢を強く打ち出すことによって、キャスト側もコンドームを使わないアナルセックスを求める客を拒否しやすくなる。

#### tw-A さん

(客からゴム使いたくないみたいなのは、そんなにない?) それは断れるようになってるので。(それはお店がちゃんと打ち出してるので?) それはそういうことですね。

#### tw-B さん

お店が後ろになるってことは、だいぶ、なんかあっても、ケツ持ちはしてくれるので。ある程度、強気にも出れますし、もうお店自体も、もしなんかあったらすぐ連絡くださいとは言われてる。

逆に言えば、店舗で働かない形の場合には、より危険にさらされることになる。Bさんは、20歳の頃に個人でやっていたこともあり、そのときのことを次のように語っている。

#### tw-B さん

(そのときのやりとりの感じでは、性感染症の予防という意味で、また自分のやりたい、やりたくない行為のコントロールはどうでしたか?) やっぱり難しいですね。お店通してないと、お客さんは横暴なので、無理やりやっとうしようとしたり。(その頃は大変だった?) 私ははっきりいうタイプなので、断るときは断りましたし、いや無理です、って言って。

また、現在、掲示板でサガ募集をしている F さんも次のように語っている。

#### tw-F さん

知り合う人は、だいたい生で入れてこうとしますね。(そのときはどういう風に?) もうそのまま受け入れてしまいます。正直、自分もそのほうが気持ちよかったり、正直、興奮したりも。

この語りに現れているように自身の指向性/嗜好性も大きな影響をもたらしてはいるが、コンドームの使用を義務付けている店舗よりも、コンドームなしの挿入行為が増える可能性があるだろう。

こうした店側の役割に関して、自身は、非トランスジェンダーで異性間の様々な性産業で働いた経験を持ち、性産業で働く人が口コミを掲

載するサイトを運営しているGさんの語りは示唆的である。

### site-Gさん

店舗型において、客層がどんだけ大事かっていうのが、受付を通ってきてる人なので、結局スタッフが通しているんですよ。なので、一回でもそういうことがあったら、絶対に女性が愚痴ったり報告してるのに、それでもそのお客さんまた通してんだ、っていうことになるので、相対的に評価が下がる傾向にあります。【ここでの「評価」とは、彼女が運営する口コミサイトが、五項目、バック（お金のこと）、回転率、客層（どのような系統のお客さんが多いか、スタッフ（お店で働いてるスタッフさんはどういう人たちなのか、環境（備品であったり、店舗自体が汚いとか）に関して、キャストが評価する形のことを指している。）

（それは店側の管理が行き届いてないってみたいなことになる？）なので、それを許したままずっと通していると、実質、つけない店なるんじゃない、つけるようには言われてるけど、つけない店としてお客さまも通ってるよね、って、言う感じですよ。

（なるほど、なるほど、そうすると、店側がそこをちゃんとするか、によってだいぶ違う？）そうですね、顧客管理というか。

### 客層について

Gさんが経験してきたのは、非トランス女性が働く、異性愛者男性向けの性産業であり、ニューハーフヘルスなどのトランスジェンダーの人が働く性産業と大きく異なる位置付けに置かれがちである。おそらく、トランスジェンダーの性産業のキャストとなる人の中にMSM-SWとして働いていた人もいることから、一層そのように見られたりもする。

### tw-Aさん

売り専の子たちに、ニューハーフ系のお店の人たちが声かけてるんですよ。（そうなんだ）売り専の若い子とかに、そっちよりも最低でも三倍は稼げますよ、って。普段の生活は男性として生活していて、お店に来るときだけ女の子してくれればいいから。

しかし、客層との関係から、非トランス女性が働く異性愛者男性向けの性産業との連続性や構造的類似性が高い。なぜなら、基本的に客は異性愛者であるからだ。

### tw-Aさん

（逆アナルを求めるといふ人はゲイとかじゃないんだよね）逆アナル、むしろゲイじゃないんですよ。逆アナルで一番多いパターンは、SM系とかで、SMのお店だと、まあ、他のお店でも結構、アナルを、性感マッサージとかもそうですけど、いじられるんですよ、女の子に、で、アナルの快感を覚えてくると本物を入れられたいという欲求が生まれてくるんですよ（おもしろいねー）、でも、そこからがすごく、変な方向に行くんだけど、ゲイじゃないので、女性に入れられたいわけですよ。（なるほどね）そこでちょうど便利なのが、女に一応見えて、ちんこがついてるのが一番ベストになってくる。

### tw-Bさん

（お客さんはどういう人ですか？）基本、ストレートですね。意外と。まあ、ゲイの方は無理だけど、女性の格好してるなら大丈夫っていう人とか。私は、基本それはストレートだと思っているので。

それは、店舗で働いているわけではないFさんも同様に感じている。

tw-F さん

(相手の人は、どういう人になりますか。性的指向と違ってことですか) ノンケ【異性愛者】ですよ、たぶん。自分もノンケじゃないと興奮しないです。女性のように扱って欲しいので。

このように、主たる客が異性愛者男性であることにより、トランスジェンダーの人が働く性産業は、働く人たちの多様性と MSM-SW とつながりがあるにもかかわらず、基本的に異性愛性産業の文脈にあり、そこで生じる関係性や性行為もその枠組みに回収されがちである(女性を主たる客とする店舗もあり、今回のインタビューでも tw-E さんが「レズ風俗」での経験について語っており、そこではまた異なる関係性も考えられるが、今回の研究では調査対象としていない)。

例えば、トランス男性のCさんは、男性であるわけだが、客がおこなう性行為や、これまで働いた経験について次のように語っている。

tw-C さん

(性行為は?) 膣は使える形ではあるので、客が手で膣をいじってくる感じ。基本、客はヘテロ男性。こちらのことは、女性の派生、のように見える。女装をして仕事することもある。

地方へ出稼ぎに行ったときに、そのお店の人に、トランスであることを店側には伝えたのだけれど、わかっているのか、いないのか、店側は客にトランスであることを言っていないみたいで、結局、女性として働くことになったことがある。ソープランドでも働いたことがあって、そこは、作業量が多いので大変で三日でやめたのだけど、そこも、女性としての勤務だった。そういうところでは、胸がないと厳しい。

TG-SWの性産業では、異性愛者の性産業で働く人と同じように「キャスト」と呼ぶことが、両産業が同じ枠内にあることを示していると言えるだろう。なにより、インターネットサイトの分析の中で、女性主体の性産業にトランスジ

ェンダーの人たちが入っていることも多いことは、その証左である。

そして、こうした異性愛の枠組みの中では、挿入行為の中心性がMSMのセックスワークよりも高く、かつ、HIVへの身近感が少ないがゆえに、客側がコンドームを使用しないことを求める傾向性が高い可能性が考えられる。

そうした環境の中で、TG-SWの健康リスクを下げるためにどうした取り組みが考えられるかについては、結論の部分で論じる。

### 3. MSM-SW の置かれている状況の把握 (インタビュー調査の追加)

昨年度の MSM-SW のインタビューにおいて取り上げたテーマ、「性行為の内容と予防」「非予防行動」「客層」「MSM-SW の階層差と多様性」に関連した内容を、今回のインタビューデータから抽出しながら考察を加えた。

それとともに、売り専経営経験者 mo-D さんのインタビューから聞かれた、HIV 陽性とセックスワークに関する重要な提言を最後に記している。なお、昨年度は、「性行為の内容と予防」「非予防行動」は別項目としてあげたが、今回は、発言内容から一つにまとめた。

以下、引用記述内における ( ) は調査者のインタビュー中の発言を、【 】は調査者による補足説明を示す。

#### 性行為の内容と予防について

男性同性に性的サービスを提供する店舗においておこなわれる性行為の内容に関して、過去2年間の調査結果を簡単にまとめるならば、次のように説明できる。そうした店舗の多くは、マッサージ店として、手で客を射精させることが基本であり、時にフェラチオもおこないはするものの、基本、アナルセックスがおこなわれることはない(なお、性的サービスを提供しないマッサージのみの店舗も少なくない)。

その一方で、アナルセックスがおこなわれる業態は、売り専と呼ばれる。マッサージ店では、個人営業が多いのに対して、売り専は、中規模、大規模で展開し、支店を多く持っている業者もある。

こうした業態の幅が、トランスジェンダーとMSMの性産業のあり方の大きな違いと言える。さらに、売り専ではアナルセックスがおこなわれるとはいっても、その実行はボーイによって差があるようである。

### mo-Cさん

(行為自体は、アナルセックスまである前提で) うちはそうですね。ただ、できるだけ聞き出すようにしています。で、できるけど、がつつしできないっていう人も、なんでも来いってみたい人と、全然アナルはダメな人といろいろあるんで、ボーイにできるだけ正直にそれを伝えるようにしています。

(できない、どちらかだけという人も結構いる) そうですね。増えてきている。もともとみんな結構適当にごまかしてきたんだと思うんです。アナルの要求って、できますって言わなくちゃ売れないんで、できまーすって言って、指突っ込んだりして帰ってきた子が多かったはずなんですけど、だんだん、代返【料金の返金】になってきて、それで、新人の売上げがバーンって落ちちゃうんですけど、(それはタチるのが難しいって) そういうことです、そういうことです。

性感染症の予防に関しては、過去2年間におこなった、店舗で働くMSM-SWのインタビューから、オーラルセックスではコンドームが使われることはほぼ皆無であるものの、アナルセックスでは使用傾向が高い傾向にあることが明らかになっており、今回のインタビューからも同様な発言が聞かれている。

### mo-Cさん

(じゃあ、アナルまであるってことは、その例えばサイトとかに予防について書かれたりとかは) そうですね。ちょこっと書いていたけど、今はコンドーム前提ですからね。

ちなみに、こうしたコンドームの使用の状況に関して、Cさんは、ここ20年ほどに大きく変わったと語っている。

### mo-Cさん

(例えば予防できなかったとか、あるいは無理強いされとかそんな話はあったりするんですか) 最近では聞かないですね。(以前はあった感じ?) たまーに、やっぱりありますね。薬物すめられちゃったとか。とか、生は減りました。減りましたっていうか、僕がマネージャーやり始めてから、あんまりないですね。(略)

僕がボーイの頃使うと、え、って言われたんですけど、ちょうど20年くらい前なんですけど、お店のマネージャーに、僕コンドーム使いたいんですけど言ったら、「いや、お客が使いたかったら使っていいよ」という風に言われてた時代なんで。たぶん、地方、地方はってことはないよ。あれは、2000年くらいなんですけど。

この20年間の変化も含め、Cさんの発言からもわかるように、店側の示す方針、態度がコンドーム使用に大きな影響をもたらしている。

### mw-Aさん

【10数年前に大規模な売り専で勤めたときに】初回は研修というか、初めてお客さんに着く前に、カラオケの歌本みたいな厚さのマニュアルが。ほんと、保健の授業で習うような一般的な内容と、あと、お尻が使えると言った子には、お尻の洗い方と、あとコンドームの使い方とか。(じゃあ、基本はコンドームは使いましょ

うという前提の教育が) そうですね。

コンドームの着用義務はアナルセックスのときだけ。(それはかなりきっちりしている感じ?) そうですね。

(お客さんも特になしで要求したりはしない?) いや、もちろん、お客さんからの要求はあるんですけど、基本的に、まともなボーイさんだったらですよ、そういう発言された段階で、途中で切り上げて帰ってきて、こうこう、こういうことを言われました、と言ったら、出入り禁止になったりとか、そんな措置はとって。

(店側としては、アナルに関しては、使いましょうというの厳密というか) かなりこっぴどく言われてましたね。

(フェラチオ自体は使わない感じですかね?) そうですね。ただ、真性包茎の人は被せていいみたいですね。おそらく、においの問題とかがあったと思うんで。おそらくそれなのかな。

(【フェラチオのときに】お客さん側から使ってというのは?) ないですね。

教育という意味だけでなく、TG-SWに関する考察でも指摘したように、店側の客の管理という意味でも店舗の役割は大きい。

### mo-Cさん

よっぽど言ってくる人っておかしな人なんです、たぶん、他の店にも通達がいっちゃうような人ですね。(無理強いするような人はってことですよ) そうそう、あつという間に排除されちゃいます。

さらに、店側が果たせる役割という意味では、Cさんの店舗でおこなっているB型肝炎のワクチン接種料金の負担は、性感染症の予防方策の一つの好事例と言える。

### mo-Cさん

B型肝炎のワクチンだけは、全額お店側が負担してるんですよ。(省) これは、下手すると、下手するっていうか、人生にかかわる感染症なんで、死んじゃうとかっていう話になっちゃう。うちもそれで入院費用出すわけにいかないし、ごめなさいですむ問題でもないし、まあ、責任逃れに近いんですけど、金が少々かかっても、嫌な思いをお互いしたくないんっていうんで、入ったら受けろって。

しかし、こうした店側がコンドーム使用の姿勢を打ち出し、ボーイに求めているも、実際のコンドーム使用に関しては、当然ながら、現場の関係性などに依存する部分も大きい。Aさんは、10代の終わりから勤め始めた大規模店にいる頃に、コンドームを使わないこともあったという。

### mw-Aさん

(使えないなあ、ということはありませんか。) 通いつめてるお客さんとかだったら、断るに断れないってことはありましたね。(どちらかというと、強引というよりは、常連とか) そうですね、そういうことですね。

(そういう流れの中で病気のこととか心配なったりすることは?) ありますけど、僕は、いわゆる検査は定期的に受けてる人なので、ありましたけど、ある程度、自己申告を信じてしまう部分がありましたね。

(お客さん側の、ってことですよ?) そうですね。(じゃあ、なんとなくそういう確認があったりもする) そうですね。

だが、4年ほど前から働いている現在の店では、コンドームを必ず使用するようになったという。

### mw-A さん

(親密になると予防は?) 今のお店ではないですね、さすがに。(店が厳しいってことですか?) 厳しいっていうより、怖くなったというのが正直なところなんですよね。(それはきっかけが?) なのでしょうね、やっぱり、人間どこで何をしてるかわからないので、それがわかる年になった。若いときは、自分はならないという根拠のない自信がありましたけど。(略)

(お客さん自身の反応は?) やっぱり食い下がるひともいます。(むりやり、乱暴にしてくる人もいない?) たぶん、キャラ的にやり返されそうに思う人もいると思うんで。だから、人を見て言ってるんだらうな、っていうの、僕もわかっちゃいますよね。おそらく中性的な子だったら、ぐいぐい行くんだらうなと思いますね

客との間に生じる親密感、身体性や性格なども影響する力関係などに左右される部分はあるものの、店舗で所属し働くことは、客からのコンドームなしの要求を断りやすくなる。また、それと同時に、元々の自身の性感染症予防への意識にかかわらず、アナルセックスではコンドームを使用しなければならないという規範に身を置くことでもある。

### mw-A さん

(まわりのボーイの予防の状況は?) 病気そのものを予防しようっていうよりも、お店のルールだから守る、みたいな。ある意味お店がきっちり出してるから、一応それを守りましょう、みたいな感じはやっぱりあったり。

逆に言えば、店舗に属さずにサポなどの形で個人で行う場合には、当然ながら、そうした集団的な規範の枠に入らないことになり、客との力関係、本人の置かれている環境と、おそらくそうした環境との関連も強いであろう、本人の「予防意識」がより強く影響することになる。

### mw-B さん

(掲示板でサポ相手を募集するようになったのはいつからですか?) 1年半...あ、2年前ですね。

(行為自体はどんな感じですか?) まー、フェラチオしたりされたり、ケツはリバだけど、ウケすることのほうが多いかな。

(その時コンドームは使ったりします?) うーん、使ったり...使わなかったり。(使うときと使わないときの違いってありますか?) 流れ? ウケるときは相手任せな感じで。(使うのと使わないのどっちが多い) 正直、使わないことのほうが多いですね。

(タチのときはどうですか) うーん、どうかな... 相手によるかも。(どういう相手なら...) ちょっと危ないかな、って思うとつける感じで。(ちなみに危ないかどうかは、どこで) 雰囲気ですかね。

Bさんは、大規模な売り専で働いていた経験もあり、そのときのことに関しては、「ゴムはフェラでは使わなかったけど、アナルでは使った。店からつけるように言われてたし」と語っている。

こうして、店舗型では、アナルセックスでのコンドーム使用が前提とはなっており、おそらく仕事の継続性も考え、予防に気をつけるボーイが多いことが、この3年間のインタビュー調査では語られてきた。しかし、それでもなお存在する、HIV感染リスクに関する、売り専の経営の経験のあるDさんの次の指摘は重要である。

### mo-D さん

(性感染症の予防に関しては比較的安心ってことですか? ボーイの側を守るという意味でも、安心できる...) でも、まあ、守りきれてるかっていうと、僕はわかんない(略) たぶん、守りきれてはいないと思います。頻度高まりますから、やっぱり。

この発言は、コンドーム使用の決まりが必ずしも守られるわけではないことだけでなく、フ

ェラチオではコンドームを使用しないため、HIVに関しては感染可能性が低くとも、その行為を繰り返すことによるリスクについてである。この問題は、この考察の最後に記す、HIV陽性後のセックスワークに関する彼の提言につながっている。

### 客層について

客層に関しては、これまでのインタビューからは聞かれることのなかった、海外からの客のアクセスについて語られた。その背景には、海外からの客を仲介する人の存在もあるようだ。

### **mo-C さん**

最近、海外の方多い。中国系の方が圧倒的に多いんですけど、台湾、香港、中国、台湾からです、香港からです、と名乗る人もいる。

面白いのが同じ名前のお客さんがすごいたくさん指名するんで、おかしいな、って思ったら、ボーイが行ったら全然違う人なんですね。（仲介屋さんだった）そうそうそう、あれ、みたいなの。（そんな商売の仕方が？商売でやるかわからないけど）商売でやってそうな気がしますね。最初はパラパラだったんですけど、すごい頻度が高い。

ゲイ／バイセクシュアル男性のコミュニティ、ネットワークにおいて、東アジア内での移動が活発になっているが、国の枠を超えた形での性感染症の問題への取り組みが必要となっていると言えるだろう。

### MSM-SWの階層差と多様性

これまで、本研究では、MSM-SW内の多様性と、階層差の問題を強調してきた。ここでいう階層とは、経済的な問題だけでなく、生活をコントロールする力の習得なども意識した表現である。昨年同様、今回のインタビューでも、若くして売り専で働き始めるボーイに関して次の

ような発言が聞かれている。

### **mw-A さん**

今まで、語弊あるかもしれないけど、貧乏育ちの子でも、1日で10万、20万、一瞬で手に入れることもできたりするので、使い方もわからない状態で多額の現金を渡されると、そのまま崩れてしまったという子もいますよね。

【Dさんが売り専を専業としなかった理由を尋ねた質問に対する返答として】一緒に待機してる子をみていて、ほんとうに染まっちゃってる子とかいるんですね、業界に。となると、自分もそうなっちゃうんじゃないかなって、その。

（染まってるっていうのはどういう感じですか？）なんていうのかな、明らかにお金の使い方が派手になっていったりとか、もう朝方まで飲んで、待機室で寝て。（略）

保険証をもってない子たちとかもいるんですね。たとえば、ほんと家出状態で出てきて、そのままお店の寮に入っちゃた子とかは。ほぼ、ホームレス状態の子もいるわけですよ。てなると、毛じらみもらって、ゴキジェットで殺してる子とかいたんですよ（笑）。確かに殺虫剤だけど。でも、病院とか行けないとか。

（いろんな知識がないままそこにくるもいて）そうです。あとなんか、正直その、お金の使い方とか、社会性の問題もあると思うんですけど、結局、そういうところからアプローチしないと、生き方が。【売り専で働き始めるのが】はやいのかな。

HIVなどの性感染症の問題に限らず、特に若い年代で売り専などで働くようになったセックスワーカーの、医療へのアクセスも含めたセルフケアに関する課題が表されていると言えるだろう。

また、MSM-SWの多様性に関連することとして、今回のインタビューの中で注目したいのは、店でB型肝炎ワクチンの量人の負担に関する

mo-Cさんの次の言葉である。

### mo-C さん

でも、受けるかどうかって言うと、受けてくれない人多いですね。あー、そうですか、みたいな。ゲイの子だと割と、えー、いいんですか、みたいな感じでポンポン受けてくれるんですけど、ノンケの子とか、あ、そうすか、みたいな感じで。（あんまり実感がないのかな）僕もあんまりくどくどとは言わない、入店当時にただで受けれるから受けときなよっていうんですけど。

MSMのセックスワークの現場には、ノンケ（異性愛者）のボーイも少なからず存在することはよく知られており、この研究でも触れてきたが、HIVも含め、性感染症にたいする身近感に関して、ゲイとノンケの間に差がある可能性が示唆される発言であり、今後、そうした身近感のないワーカーの存在も意識した情報提供が必要と言える。

### HIV 感染後のセックスワークについて

今回、mo-Dさんには、その過去2年分を、売り専の経営経験のあるDさんにあらかじめ読んでもらい、その感想も含め、今後への提言をうかがった。

その中で、特筆し取り上げるべきテーマとして、HIV感染後のセックスワークがある。彼がそのことについて発言する背景には、Dさん自身が売り専を経営する中で、ボーイがHIVに感染したこと、何人かHIV陽性のボーイに相談を受けた経験がある。ボーイのHIV感染については、昨年度、別の経営者のインタビューにおいても、「多くはない」という強調としてはあるが、言及されていた。

アナルセックスでのコンドーム使用傾向が高いといっても、先のDさんの感染リスクについての指摘にあったように、中規模、大規模の売り

専では、当然、ある程度の確率で起こりうる。

昨年の経営者のインタビューでは、感染した後、セックスワークについては辞めてもらったという発言であったが、今回、Dさんが問題定期するのは、その後、セックスワークへ復帰できるようにすべきというものである。

### mo-D さん

（提言を出していくんですけど、必要なこと、思うことありますか？）陽性者の人の参加ですね。セックスワークへの。今、あれですね、治療したら人にうつさないですね。（感染しても、治療がすすんで、検出限界以下になったらそこで働ける環境をっていうこと？）そうですね。実は、隠して働いている人もいるのではないかと。（略）これ【過去2年分の報告書】読んで思ったのは、みな割と【その問題について】黙ってますね。（略）

（経営者とかに聞くと、やっぱり、感染して、僕はほら、検出限值以下になったら感染させないけど、感染した場合のことどう考えますか、と聞くと、やっぱり働いて欲しくない、みたいな）でも、ほんとうなら、そういう人【投薬によりウイルス量が検出限界以下になった人】だと、感染させることも、HIVに関しては感染することもないから、経営者としてはいいはずなんですけどね。（略）

「ウイルス量がゼロになるまで、休んで」ということができるといいんじゃないかと。陽性者も働けると思ったら気兼ねなく半年くらい、みんな休んでくれるんじゃないかなって思うんです。そうじゃないと、検査も受けづらくなってしまう。特に、売り専というかセックスワークの収入に占める割合の高い子の場合。戻って来られるというほうが、検査も受けやすいし、店側にも伝えられし、お互いに良いと思うんです。

近年、20年以上の研究結果に基づき、血液中の HIV 量が検出限界以下になれば、HIV 陽性者から他の人に HIV が感染するリスクは無視できると言われており、U=U (Undetectable = Untransmittable) という表現を用いて、その事実に関する認識を広げようという動きもあるが、その立場に立つならば、D さんの提言のように、HIV 陽性者のセックスワークについて支持的に語らないと矛盾が生じる。

そして、そうした HIV 陽性のセックスワーカーにとって、HIV 以外の性感染症の検査が受けやすくなることはとても重要である。

### mo-D さん

性感染症、HIVの検査とセットになってる無料検診が多いです。だから、HIVプラスになっちゃった人が、それ利用しにくいという話をしまして。バラバラのオプションでやりたいって話は聞きますね。

(HIVで診察を受けている病院でも、医師との関係で定期的に性感染症の検査を受けづらいこともあるでしょうね) そうだと思います。

HIV陽性者も働ける、働いているという前提が共有され、それを前提とした環境ができていくなれば、HIVの感染は確認されていない人はHIVの検査を受けやすくなり、また、HIV陽性者も他の性感染症の検査を受けやすくなることだろう。

### E. 結論

今回、インターネット上で把握できた全国の TG-SW が在籍する性産業事業者は、228 軒 (女性主体 148 TG 専門 63 混合 19) であった。これらの店舗で TG-SW として働く人は、1902 人。TG 専門店の 7 割近くが、東京、愛知、大阪、福岡に集中しており、また首都圏の店舗で働く TG-SW が全国の数の半分を占める。こうした店舗のインターネットサイト上で、性感染症

予防のために客にコンドーム使用を求める文言を明確に提示している店舗は、37.8%しかなく、見た目で性感染症と思われる場合に断るこの承諾を求める文言の 43.9%より少ない。

しかし、TG-SW などのインタビューからは、店舗が客に対してコンドーム使用などを求める態度をどれだけ明確に示しているか、問題行動がある場合に、その後、その客の出入りを禁じることができるかなどが、ワーカー自体の客に対する態度を貫くことへの影響も示唆され、今後、店舗に対して、挿入行為においてコンドームの使用が必須であることをサイト上に明記すること等を求めていくことで、店舗で働く TG-SW のリスク低減につなげていける可能性があるだろう。

また、今回の調査からは、男性を客とする場合、トランス女性もトランス男性も、客は基本異性愛者であり、TG-SW の多様さとは対照的に異性愛関係の枠組みが強く、時に異性関係的なパワーバランスの中でリスクにさらされがちな様子が見えがえた。それは、体格差であったり、トランス男性でも女性と見られることにおける男性客の強引な行動であったりということによっても影響される。サイトなどからは、TG-SW がリードするスタイルのプレイも少なくないことがうかがえることから、そうした関係性が固定的というわけではないことは明らかではあるが、MSM-SW より、そうした傾向が高く生じている印象を、これまでの MSM-SW のインタビューの比較の中で強く持った。

また、TG-SW は、MSM-SW と連続性や近接性がある。客との関係性などから異性間のセックスワークに近く、そのため HIV など性感染症に関する情報が届きにくい可能性もある。今後、異性間の性産業の文脈からも、MSM-SW の文脈からもアプローチしていく必要があるだろう。

一方、MSM-SW に関しては、店舗に所属し働いている SW に関して、過去のインタビュー結

果も含めて推察すると、おそらく、全体としてアナルセックスにおけるコンドーム使用の傾向性は高いと。しかし、今回、mo-Dさんが言うように、時に起こるコンドームなしのアナルセックスや、コンドームなしのフェラチオの繰り返しにより、HIV感染のリスクはぬぐいされない。

そうした状況で、Dさんが提言するように、治療により、HIVが検出限界以下になったHIV陽性者のセックスワークが支持されていく環境をつくらなければ、セックスワークが生活基盤であればあるほど（よって、リスクが大きくなりがちな人ほど）検査へのハードルが上がることもあり、また、感染がわかっても言えないという状況が生じる可能性がある。

これは、当然、TG-SWに関しても、異性間のセックスワークについても言えることである。世間一般に広く理解を得られるには時間を要するかもしれないが、U=U（Undetectable = Untransmittable：HIV検出限界値以下の人からは感染のおそれがない）を伝えていく側は、陽性者のセックスワークを肯定する立場に立つ必要があるの。

そのためには、HIV陽性者が受けやすい性感染症の検査機会を設けることなどの環境整備も必要となる。また、考察では引用しなかったが、HIVと他の性感染症の検査を定期的に、クリニックでセットで受けてるtw-Bさんなどからは、その費用の負担の大きさについても語られた。HIVや一部の性感染症は保健所などで無料、あるいは安価で受けられるが、結果が出るタイミング、気になる感染症をすべて一緒に受けられることなどからクリニックを使用しているという。定期的に検査を受ける形になることが多い、セックスワーカーが受けやすい機会と費用についても検討する必要があるだろう。

そして、セックスワーカーの健康問題について考える際、性産業従事者が主たる対象となってしまうが、本研究でも繰り返し指摘してき

たように、店舗に所属することなく、「セックスワーカー」という意識なく、金銭の授受を伴いながら性行為をおこなっている人たちが、もっともリスクにさらされている。こうした人たちへのアプローチをいかにおこなっていくかも大きな課題の一つである。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表 なし